

校 内 研 修 構 想

黒潮町立伊与喜小学校

(1) 研究主題

『 主体的に学び、共に高め合う児童をめざして 』

～複式教育の創造～

(2) 主題設定の理由

現在、学校は、子どもたちを取り巻く社会状況の変化に対応し、一人ひとりに確かな学力の定着を図ると共に、豊かな「人間力」や社会性を身につけることが求められている。また、環境の変化や家庭、地域の教育力の低下、社会体験や生活体験の不足、人間関係の希薄化など課題が山積し、学校への期待や要望は大きくなるばかりである。

こうした社会的要請が高まる中、本校においても、生涯にわたって、意欲的に学び続ける児童を育てていくことが、地域で生きる、地域を活かす児童を育てることにつながると信じ、この主題を設定した。

三方山や伊与木川といった豊かな自然に恵まれた地域であるが、目の前を国道が通り交通量が多い校区でもある。全校児童21名の小規模校であり、児童は、明るく素直で、休み時間は学年を越えて共に遊ぶことができる。また放課後は、ソフトボールやバレーボールに励むなど逞しい姿を見せる反面、主体的に学ぶ姿に課題が見られる。

こうした地域性や児童の実態を考慮しながら、今年度も完全複式校、複式学級3学級としての学校、学級経営を行っている。研究の重点としては、今年度中山間地域小規模・複式教育研究推進校としての取り組みを受けて、生き生きとした学校づくり、授業づくりを推進するために児童一人ひとりの基礎学力の定着・充実はもちろん、本校における授業形態である複式授業での主体的な学び（一人学び）の定着と学力向上を目指した研究を推進していきたい。

これまでも、国語科・算数科を中心とした基礎学力の定着と、安心して学習に取り組める学級（学校）づくりや支え合えるなかまづくりをめざして取り組んできた。しかし、自ら考えて活動したり、自分の思いを相手に伝えたり、相手を意識して話したりすることや聞く姿勢が十分身に付いていない児童もあり、深まりのある授業になりにくいといった課題が見えてきた。

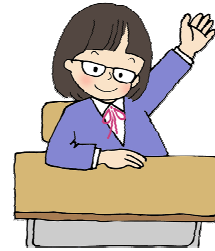
上記に記載してきたように、研究主題及び副題については『主体的に学び、共に高め合う児童をめざして』～複式教育の創造～として1年目の取り組みとなる。今年度も複式授業研究を中心に、個々の授業力を高めていき、また特に、課題の見られた「書く力」の指導法の工夫・改善を中心に据え、「話す・聞く力」（コミュニケーション能力）の向上をはかっていきたい。

そして、児童一人一人に各教科の「基礎・基本」を確実に身につけ、実生活に生かすことができる「確かな学力」を保障することが強く求められている。その「確かな学力」とは、基礎的・基本的な知識や技能だけでなく、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力、問題解決力などを含めた広い学力と捉えている。本年度も、年間4回の発表朝会や読み聴かせ朝会、また毎日の読書・視写タイムにも積極的に取り組み、言語活動の充実を図るとともに、授業における課題解決に向けて、学級の仲間と共に学び合う場面を設定することで、集団で思考を深め、言語を通して表現していくことも指導のポイントとしたい。

そうして、「豊かな心」を育て、生きる力を持ったバランスの取れた児童の育成に努めたい。

(3) 研究の重点目標

- ①複式教育の充実
 - ・児童による自主的、主体的な学習の実施、定着
 - ・授業づくり
- ②基礎学力の充実と学力の向上
 - ・全学級における授業研究の実施
 - ・授業評価表の活用と授業改善
 - ・全国学力学習状況調査、標準学力検査の分析と活用
- ③心の教育の充実（道徳教育・人権教育）
 - ・共に喜び合い、支え合う集団づくりの研究
- ④健康教育と体育活動の推進
- ⑤総合的な学習の時間の充実
 - ・「生きる力」の育成をめざし、研究・実践する。



(4) めざす児童像

①基礎基本を身につけ、主体的に学習する子ども

聞く・話す・読む・書く・計算するといった基礎基本を身につけ、それをもとに自らが主体的に学ぼうとする態度を養っていくことが大切である。学びに主体である子どもが、受け身の姿勢で学習するのではなく、自ら考え、問題や課題と向き合い、粘り強く解決していかうとする態度の育成こそ「生きる力」の育成につながっていく。子どもに確かな学力を保障するためには、自ら主体的に学んでいかうとする意欲や態度を引き出す授業づくりをめざしていかなくてはならない。

また、「学ぶ」ことの基本は、「話す・聞く」ことにあると考える。また、相手に自分の意志を伝える表現として、「話す・書く」という目的を意識した主体的な活動ができる児童を育てなければならない。「聞く」ことの苦手な児童はいるが、「聞きなさい」ではなく、次に活動するために、意欲的に聞こうとする場面の設定や指導を行っていく。そして、「読む・聞く」という一人称でも行うことができる学習はもちろん、コミュニケーション能力を高めるために、「話す・書く」という対象（相手）を意識した生活に即したより高い学力を身につけていきたい。

②お互いのよさを認められる子ども

「今の自分が、ありのままの自分が好きだ。」という自尊感情（セルフエスティーム）を育てることがまず大切である。自分を否定するのではなく肯定的に認め、「自分らしさ」に自信を持ち、自分を価値あるものと思えるようになることである。自らを肯定的に見ることができる子どもは、他人に対しても同様に肯定的に見ることができると言われている。逆に言えば、自分のことを大切に思うことができなければ、人のことを大切にしようという気持ちも起こりにくいということである。

自分の価値を認め、他人の価値をも正しく認められる子どもは、差別や不平等に対しても黙って受け入れることをせず、不正に立ち向かっていく。すなわち、何か疑問や矛盾に出会ったとき、人に頼らず、自分から進んで物事を解決しようとする心の準備ができていることである。

③人の話をしっかり聴き、自分の考えをはっきりと言える子ども

人の話や思いをしっかり聴き、そのことについて自分の考えや意見をはっきりと言えるといった、コミュニケーション能力やアサーティブネス(非攻撃的自己主張)を育てることが大切である。ただ、言いたいことを好き勝手に言い合うのではなく、相手の言葉や声色、表情などから、その人の思いを受け止め、わかろうとする。そして、自分の気持ちや意見をはっきりと、相手への配慮を忘れずに表現する。少人数の学習の中でもこうした学習を大切にしていく。

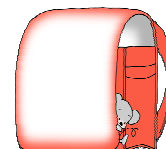
④自然に目を向け、美しさを感じ、また、なかまや地域とつながり合える子ども

ふだんの生活やさまざまな活動を通して、自然の営みの中で生きていることに感謝し、地域や保護者、なかまに支えられていることに気づき、周囲への感謝の気持ちも持たせたい。また、学び・活動する過程において、なかまや地域とつながる人間関係を構築していく力をつけることも大切である。そのためには、なかまの立場やその生活を知り、お互いのちがいを認め合っていくことも必要となってくる。ちがいがあるから楽しい、ちがいがあるから豊かになれるという価値観を身につけさせたい。その中で、自分自身もその「大切な仲間」の一員であることを実感し、助け合いや思いやりの態度が育ち、ともに生きようとする連帯感が生まれてくると思われる。

(5) 研究の組織と運営

① 研究組織

- ・学力向上部会・・・・・・中平・橋田・佐田
- ・心と体の部会・・・・・・藤原・福井・澳本



②運営

ア 研究日・・・・・・毎週水曜日（１４：５０～１６：４５）

毎月第２週…主題にかかわる研究・児童の実態

第３週…全体研修（授業研究）・教材研究

第４週…全体研修（授業研究）・教材研究

イ 全校研の授業者は、全員各１回以上行うこととする。

指導案を作成し、講師を招聘して指導案検討及び教材研究を行う。

授業研究にも講師を招聘し、指導・助言をいただく。

ウ 授業評価表を活用し、授業改善に役立てる。

エ 学級の実態報告は、年度当初（一学期中）に、学級経営案をもとに行う。

児童の実態については、職員会・校内研修に関わらず、時間を見つけては報告し合い、共通理解したうえで、共に指導できるようにする。

③研究授業について

学年	全校研実施予定	
１・２年	１０月 ９日	指導案検討【算数科】
	１０月１６日	授業研 中平 香
３・４年	１０月１６日	指導案検討【国語科】
	１０月２３日	授業研 福井 和久
５・６年	１０月２３日	指導案検討【算数科】
	１０月３０日	授業研 藤原 良仁

(6) 具体的な取り組み

①確かな学力の向上に向けて

- ・複式指導の充実・・授業研究、主体的な学びの定着（一人学び、共学び）
- ・基礎学力の定着・・復習・発展問題集等の活用
- ・言語事項の定着・・3分間視写（帯タイム）、「ことばのきまり」の活用
- ・学習規律の徹底・・「学びの姿勢・習慣」の徹底
- ・読書のすすめ
 - 読書タイム・・帯タイムで10分間読書
 - 読書量の目標設定・・毎学期3000ページ以上（学期ごとに表彰）
 - 読み聞かせ・・毎月第2火曜日の朝（図書委員会・教師・地域、保護者の輪番で）
 - 図書館を活用した授業の実施
- ・音読
 - 毎日の家庭学習に位置づけ（きずなノートに記入・・・保護者からのコメント）
 - 単元ごとの音読テストの実施
 - 授業の中での音読の場の確保（各教科）
 - 朝の会での詩の暗唱
- ・発表朝会（第1・3火曜日 8：20～8：35）
 - 1・2学期・・各学級4回実施
 - 発表後、他学年の児童が感想発表、担当の教師が評価
- ・加力学習
 - チャレンジタイムの設定（毎週1時間）
 - 夏休み学習教室・・水泳特練に合わせて実施
- ・家庭学習の充実
 - 家庭学習の手引きの活用
 - 自主学習の奨励（ノート展示）

②豊かな心の育成に向けて

- ・道徳参観日
- ・人権参観日（人権講演会）
- ・全校道徳（各学期に1回）
- ・校内人権月間の取り組み（標語・人権作文）
- ・栽培・体験活動の実施（タマネギ、ジャガイモ、米、たたき、餅つき等）
- ・縦割り班活動、児童会活動の充実
- ・Q U検査実施と分析（年間2回）
- ・地域の高齢者やかしま荘との交流

③健康・体力の充実に向けて

- ・年間を通した朝マラソンの実施
- ・体育朝会（毎週水曜日）の実施
- ・徒歩通学（集団登下校）の奨励
- ・一輪車、なわとび、全校水泳特練、駅伝特練等の実施
- ・健康についての意識の向上を図るための保健朝会の実施（月1回、体育朝会を活用して）
- ・生活調べの実施（学期に1回、ノーマディアデーも）